



JIS Q22320 一緊急事態管理一 の調査結果

2015.11.13

社会セキュリティ研究会

NTTセキュアプラットフォーム研究所
大成建設株式会社

爰川 知宏
天野 明夫

ISO22320 (JIS Q 22320) とは



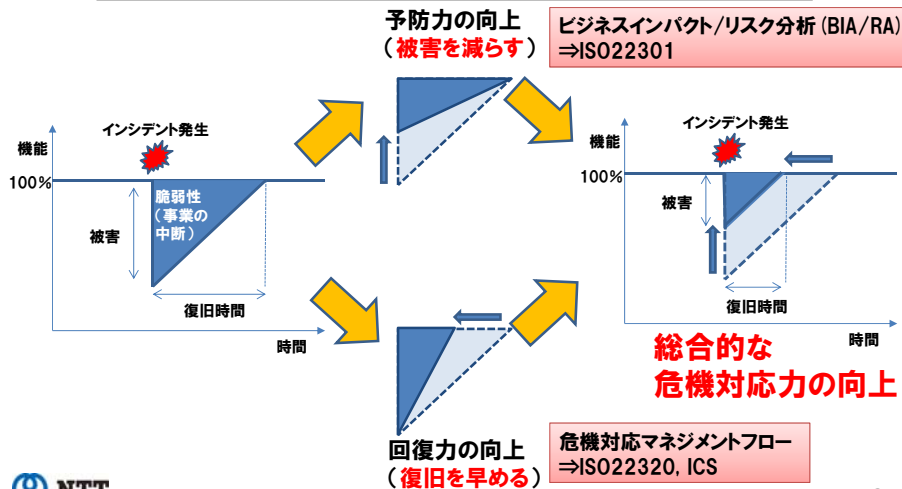
- 適切なリスク管理を実施しても、**回避しがたい緊急事態が発生**する可能性がある。そのため国際標準としてISO223シリーズ(社会セキュリティ)が策定されている。
- ISO22320は、**効果的な危機対応**を実現するための必要最小限の要求事項を、「**指揮・統制**」、「**活動情報**」、「**協力および連携**」の観点から規定。
- 2013年10月に**工業規格化**(JIS Q 22320)。日本語の解説本も2014年5月に発行。



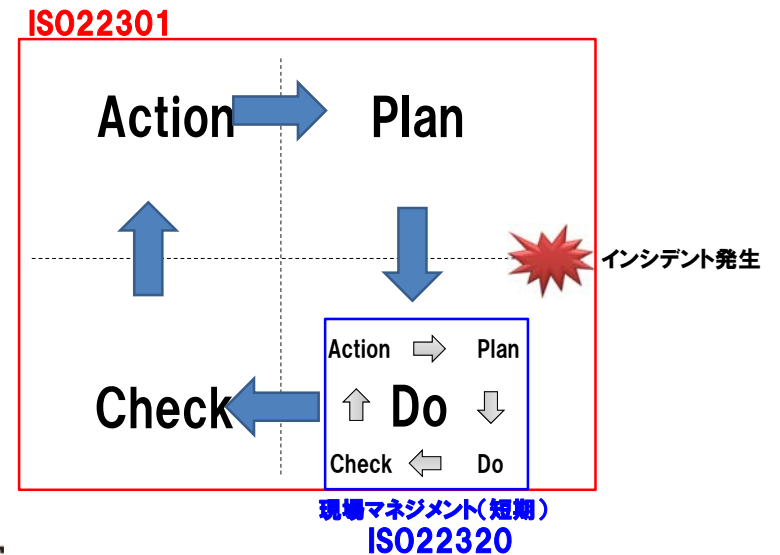
危機対応の考え方



- どのようなリスクであれ、危機対応の考え方は基本的に同じ
- 下図の**三角形の面積(脆弱性)の低減**である



危機管理のマネジメント・サイクル



ISO22320簡易版チェックリストについて



チェックリストの目的

- 規格の概略を理解していただき、自組織がどの程度必要とし、充足できているかを客観的に見える化
- (第三者認証ではなく)自己認証およびユーザー認証のためのツール
 - 自組織の強み・弱みの理解(満点を取る事が目的ではない)
 - トップ-担当間/部署間での意識違いの把握(組織を代表したものではない)
- 上記を通じ、ISO22320を企業・自治体等を問わず広くかつ迅速に普及

特徴

- 短時間で実施できるよう、チェック項目を絞り込み(33項目)
- どの程度必要か、どの程度できているかの観点で相対評価
- 平易な表現+解説+実施しないデメリットの提示による理解の促進
- レーダーチャート可視化による、自組織の強み・弱みの直感的な把握



チェックリストの構成



| ID | 項目 | 項目 | 必要 | | 達成 | | 判断資料または備考(任意) |
|---------|-------------|---|----|----|--------|-------|---------------|
| | | | 不要 | 必要 | できていない | できている | |
| 1.4.1 | 指標-統制一般 | 危機対応にあたる組織-委員には必要な権限や資源を有している。 | | * | | * | |
| 2.4.1 | 指標-統制一般 | 地域社会が参加しやすいように関係構築を継続している。 | | | | * | |
| 3.4.2.1 | 指標-統制システム一般 | 危機発生が想定した際には速やかに体制を立ち上げ(対策本部を設置し)、必要なプロセスを開始し、リーダーを明確にしている。 | | | | * | |
| 4.4.2.1 | 指標-統制システム一般 | 判断の行動を速く実施を行うために、文言を記している。 | | | | * | |
| 5.4.2.3 | 指標-統制体制 | 有数の種類に応じて指図し、分けられている。例えば役割や目的、目標を定める規範的役割、どのような活動の表現など、 | | | | * | |

ISO 22320の各節表題

チェック項目

- 計画策定
- 意思決定及び決定事項の伝達
- 決定事項の実施
- 顧客のフィードバック及び組織

必要性
自組織でこの項目がどの程度必要かを5段階で選択

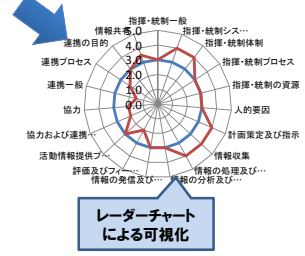
達成度
自組織でこの項目がどの程度できているかを5段階で選択

チェックに至る根拠(資料)を記述(任意)

解説
【指標-統制一般】
現場単位で必要とする資源-権限を用意されていない場合は、即時性を求められる対応が限定され、危機を拡大させる可能性が高くなる。また、広域対応を求められる場合には、地域社会との良好な関係が維持されていないと、地域社会との連携が不可欠になることを理解すべきである。

適用しない場合のデメリット
現場単位で必要とする資源-権限を用意されていない場合は、即時性を求められる対応が限定され、危機を拡大させる可能性が高くなる。また、広域対応を求められる場合には、地域社会との良好な関係が維持されていないと、地域社会との連携が不可欠になることを理解すべきである。

節単位以下に記載
・簡単な解説
・チェック項目を適用しない場合のデメリット



アンケート調査について



■ 本格活用に向け、引き続き調査への皆様のご協力をお願いします。
レジリエンス協会Webページ→社会セキュリティ研究会
<https://resiliencej.wordpress.com/research/society/>

1. 社会セキュリティ研究会

レジリエンス協会のWebページにてアンケート調査の募集

当研究会はISO22320委員会事務局の一としており、その一環として昨年よりアンケート調査を開始し、ご協力いただいたことに対し、お礼状を発送させていただきます。

最近の投稿

- 2015年10月14日 14:02 (火)
- 2015年10月14日 14:02 (火)
- 2015年10月14日 14:02 (火)
- 2015年10月14日 14:02 (火)
- 2015年10月14日 14:02 (火)

アーカイブ

- 2015年10月
- 2015年7月
- 2015年6月
- 2015年4月
- 2015年3月
- 2015年11月
- 2015年9月

チェック結果の返送先: societal-security@lab.ntt.co.jp

チェックリストのダウンロードリンク
Excel版(推奨)
PDF版(印刷実施の場合)

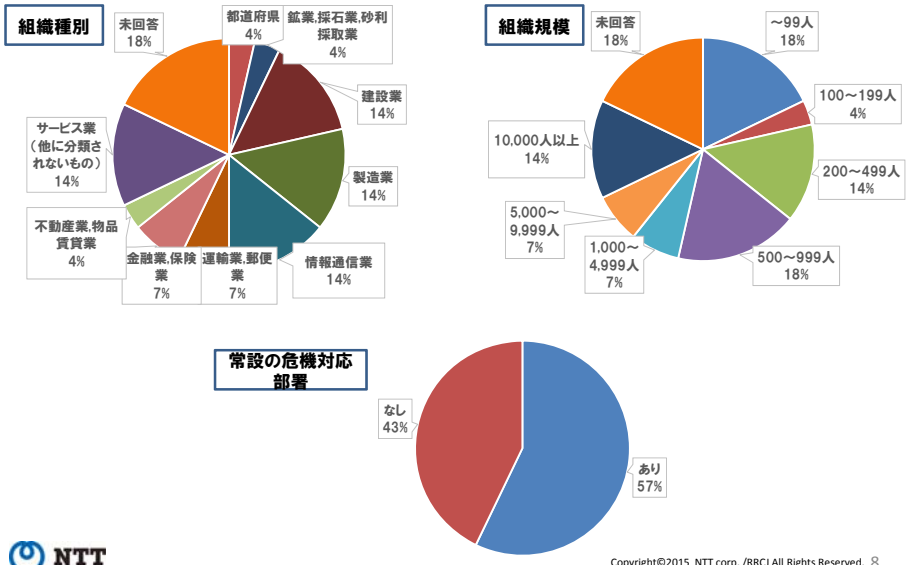


現時点(2015年10月末)の調査結果

有効回答数: 28組織
Excelで実施: 25
紙で実施: 3

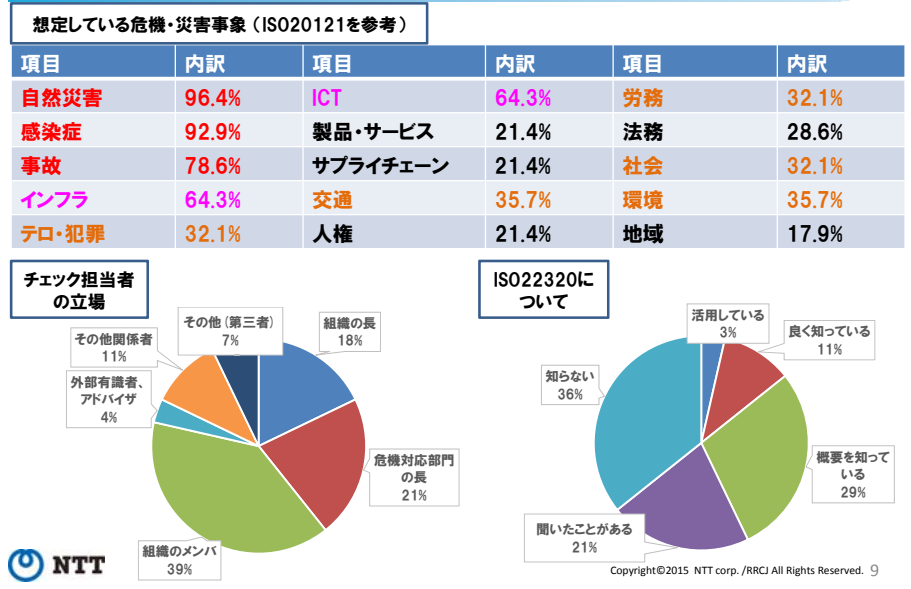


回答者プロフィール(1/2)



Copyright©2015 NTT corp./RRCJ All Rights Reserved. 8

回答者プロフィール(2/2)

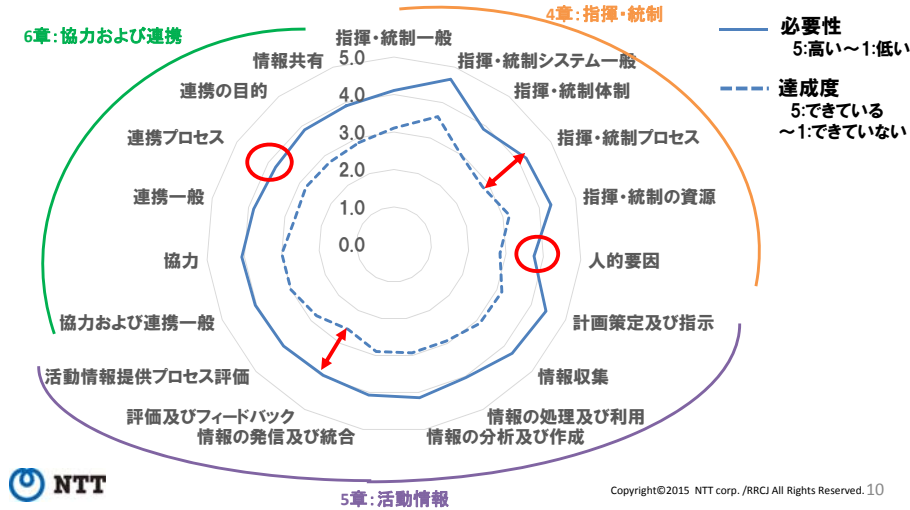


Copyright©2015 NTT corp./RRCJ All Rights Reserved. 9

回答状況(全体平均)



・必要性が低い⇒組織にとってのリスクにならないか確認が必要
 ・必要性和達成度のギャップ大⇒組織の弱み

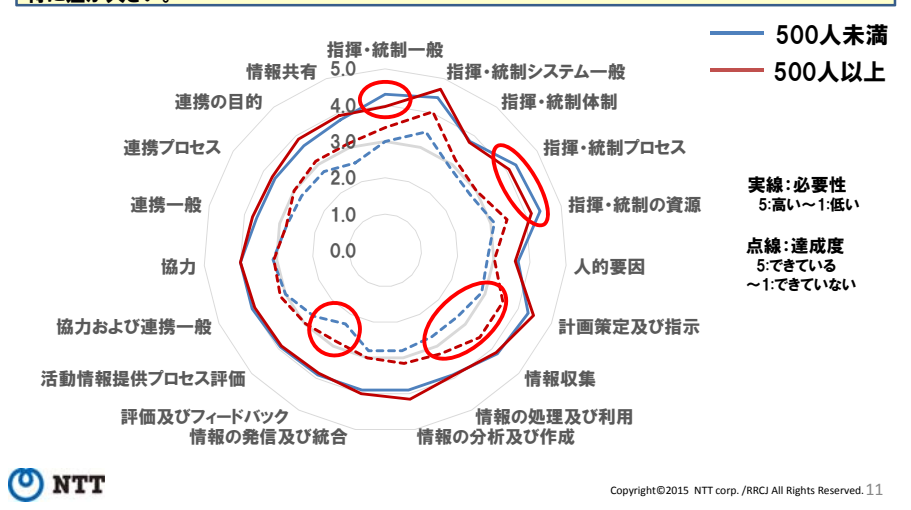


Copyright©2015 NTT corp./RRCJ All Rights Reserved. 10

組織規模での比較



・必要性については顕著な差異は見られない。指揮統制系で500人以上組織の必要性認識が低め。
 ・達成度については、500人以上組織が全般に高め。計画策定及び指示、情報収集、フィードバックで特に差が大きい。

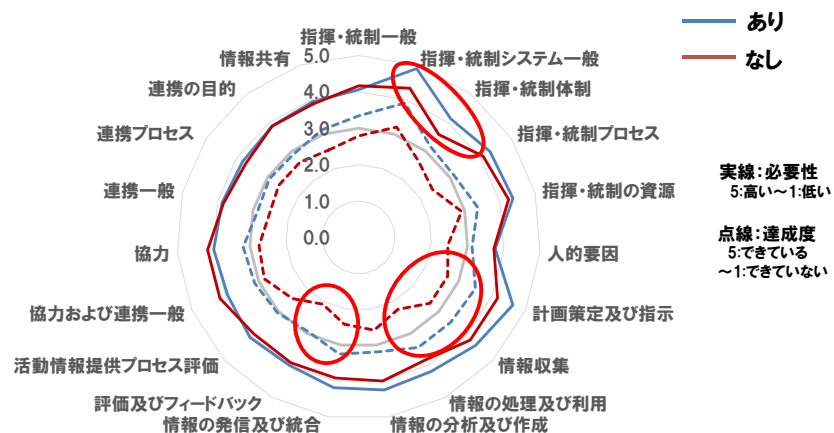


Copyright©2015 NTT corp./RRCJ All Rights Reserved. 11

危機対応部署有無での比較



・必要性については指揮統制システム・体制、および計画策定で危機対応部署ありが顕著に高い。
 ・達成度については、全ての項目で危機対応部署なしの組織が顕著に下回る。特に計画策定、情報収集、情報処理、発信・統合、フィードバックで顕著。必要性とのギャップも大きい。

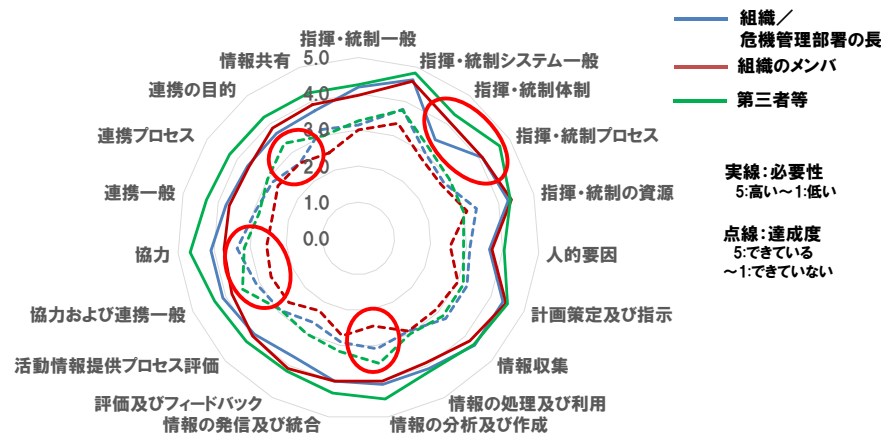


Copyright©2015 NTT corp./RRCJ All Rights Reserved. 12

チェック担当者立場別比較



・必要性については第三者の方が高く認識。体制についての長の必要性認識は低い。
 ・達成度については、組織メンバは全体に低め。長と第三者の認識にもギャップあり。

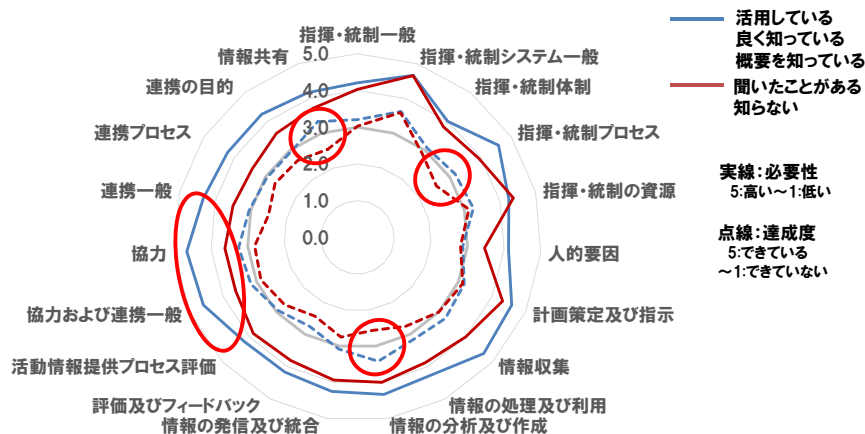


Copyright©2015 NTT corp./RRCJ All Rights Reserved. 13

ISO22320に関する知識別比較



・必要性については知らない層は協力・連携中心に著しく低く認識。
 ・達成度については知らない層は全般に低く、指揮・統制プロセス、情報分析、情報共有で差が顕著。
 ・必要度と達成度のギャップは、知っている層は協力・連携、知らない層は活動情報系で大。



Copyright©2015 NTT corp./RRCJ All Rights Reserved. 14

アンケート結果



| No. | 設問 | 回答平均 |
|-----|-----------------------------------|-------|
| 1 | 必要性、達成度というチェック観点はわかりやすかったですでしょうか？ | 3.2 |
| 2 | 各チェック項目の内容は理解しやすかったですでしょうか？ | 2.7 |
| 3 | 本シートの操作は理解しやすかったですでしょうか？ | 4.0 |
| 4 | チェック作業そのものは容易かったですでしょうか？ | 4.0 |
| 5 | チェック結果のグラフは理解しやすかったですでしょうか？ | 3.9 |
| 6 | チェックに要した時間 | 1.2時間 |

- 設問1, 2はポジティブ、ネガティブで評価が分かれる。
 - 設問2はネガティブ評価が多め
 - コメントでは特に5章、6章が分かりづらいとの声あり。
 ⇒チェック項目の文面についてはさらなる改善の余地あり。
- 設問3-5は概ね高評価



Copyright©2015 NTT corp./RRCJ All Rights Reserved. 15



まとめ

- 本チェックリストによる、危機対応の見える化の有効性を確認
- 全体的な傾向に加え、プロフィールに応じた傾向の違いも抽出

今後の予定

- さらなる調査の継続によりサンプル数を増やし、プロフィール毎の傾向を明確化
- チェック項目の文面見直し、プロフィールに応じた文面の検討



■ **本格活用に向け、引き続き調査への皆様のご協力をお願いします。**
 レジリエンス協会Webページ→社会セキュリティ研究会
<https://resiliencej.wordpress.com/research/society/>

The screenshot shows the RRCJ website with a search bar and a list of survey results. Two callout boxes highlight specific information:

- チェック結果の返送先**
societal-security@lab.ntt.co.jp
- チェックリストのダウンロードリンク**
Excel版 (推奨)
PDF版 (印刷実施の場合)

At the bottom of the screenshot, two red boxes highlight download links for Excel and PDF versions of the checklist.